

アフリカの女王

The African Queen

鑑賞日 2016・11・28

制作 1951年 米・英 上映時間 104分

監督 ジョン・ヒューストン

原作 C・S・フォレスター

出演 ハンフリー・ボガード、キャサリン・ヘップバーン

受賞 1951年 アカデミー主演男優賞 (H・ボガード)

(あらすじ)

1914年、ドイツ領東アフリカで、イギリス人のローズ (K・ヘップバーン) は宣教師の兄と布教にあっていた。生活に必要な物資は「アフリカの女王」と呼ばれるおんぼろ蒸気船を操ってイギリス人の船長チャーリー (H・ボガード) が運んでくる。第一次世界大戦が始まり、ドイツ軍が侵攻し、教会が壊され、そのショックで宣教師が死んだ。ローズは天涯孤独の身の上となるが、様子を見に来たチャーリーに救われる。

二人は宣教師の遺体を埋葬し、「アフリカの女王」で河を下り脱出を図る。しかし、行く手には厳しい大自然と激流と瀧、そしてドイツ軍の監視所が待ち構え、途中の湖にはドイツの戦艦が停泊し、あたりを制圧している。チャーリーはためらうが、ローズは断固敵中突破を命令し、二人は河を下り始めた。ドイツ軍の監視所から狙撃されたり、激流に翻弄されたりして、危機また危機の連続。二人は力を合わせて危機を乗り越えていくが、いつしか愛し合うようになる。はたして二人は脱出できるのか……

(解説)

C・Sフォレスターの冒険小説の映画化。J・ヒューストンは長年コンビを組んでいたH・ボガードにオスカー女優のK・ヘップバーンを組み合わせて、奇想天外な大冒険映画を作った。時代は第一次世界大戦、ドイツ軍の包囲網から、どうやってローズとチャーリーはおんぼろ船の「アフリカの女王」号を操って脱出できるのか。ボガードとヘップバーンの絶妙な掛け合いが見事である。H・ボガード (1899~1957) は『マルタの鷹』『キーラーゴ』等のハードボイルド映画や『カサブランカ』等でみせたシニカルなダンディ振りから一転してひげ面の野暮で酒好きな中年の船長をユーモラスに好演し、俳優デビュー21年目に初めてこの年のアカデミー主演男優賞を得た。一方のK・ヘップバーン (1907~2003) は当時44歳。演技にも一段と磨きがかかり、最初の貴婦人然とした振る舞いから、途中、河に飛び込んでの行動的な役割をチャーミングに演じた。ヘップバーンはオスカーの女王ともいわれ、主演女優賞を4回受けており、この記録は未だ破られていない。この映画でも主演女優賞にノミネートされたが惜しくも賞を逃している。この映画はアフリカでロケされた。当時「非米活動委員会」の嵐に傷ついたヒューストンが気分一新とばかりアフリカでそのうっぴんを晴らしたとも言われている。